

世の中に無いモノ・サービスを発想し「文明・文化」を創る



株式会社 富士製作所



会社外観

企業概要

代表取締役社長

村上 吉秀氏



所在地 (本社)大阪市北区天神橋2-3-8
TEL:06-6948-6411(代) FAX:06-6948-6413
(伊賀工場)三重県伊賀市炊村3108
TEL:0595-46-2211 FAX:0595-46-0101

創業 1939年(昭和14年)6月
設立 1956年(昭和31年)9月
資本金 5,000万円
従業員数 80人(2021年1月現在)
事業内容 プレスベアリング(切削・樹脂等)及びコンベヤパーツ(樹脂ローラ・コンベヤ関連部品等)の設計・製造・販売
URL <http://www.fuji-bearing.com/>

進歩を止めない変革を恐れないマテハンコンポーネントメーカー

搬送用ベアリングの トップメーカー

株式会社富士製作所は、プレスベアリング・コンベヤパーツの設計・製造を主な業務とする創業81年の老舗ベアリングメーカーである。ベアリングといえば売上数千億円規模の上場企業が名前を連ねる業界であるが、同社は搬送用機械向けというニッチな分野に特化することで、搬送用ベアリングのトップメーカーとなった。2017年1月に伊賀市炊村に工場を移転、従来の工場より敷地面積5倍、工場棟面積2倍に拡大した。新工場移転を機に、ベアリングだけでなく搬送用機械ローラの製作やその組付の分野まで仕事の幅を広げ、業績を伸ばしている。

大阪から三重へ

同社は村上吉秀社長の祖父・実氏が1939年大阪で創業。当初は主にライターや魔法瓶を製造していた。その中で培ってき

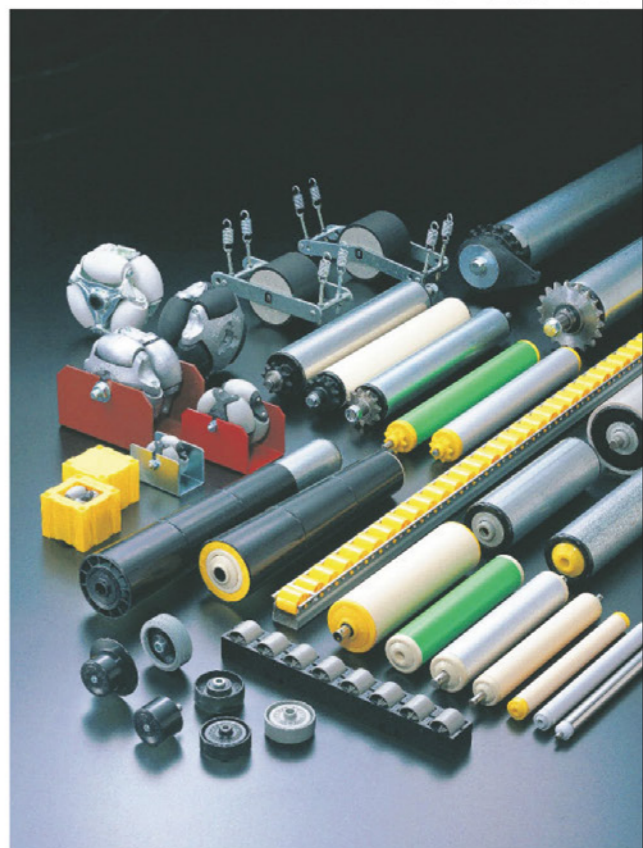
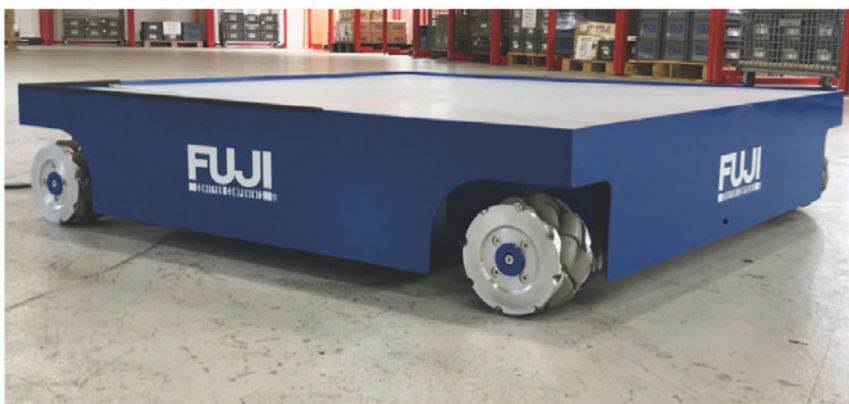


たプレスや切削の技術を基に、ベアリングを保持する小さな部品・リテーナの製作をするようになった。

その後、順調に業績を伸ばし、関西だけでなく名古屋の取引先も増えてきたことから、1963年大阪と名古屋の中間である伊賀上野の地に新工場を建設、手狭になった大阪から伊賀に生産拠点を移した。

そして移転の翌年には新工場でのコンベヤ用のプレスベアリング完成品の製造・販売を開始するに至った。

「FUJI NINJA WHEEL」装着の搬送車



自動車業界への挑戦

2008年11月父親である前社長・昌弘氏が急死、引継ぎもほとんど受けていないまま現社長である吉秀氏が代表取締役役に就任した。その頃、世の中はリーマンショックによる不況が始まっており、翌年の同社の売上は前年比で半減、新社長就任直後の試練であった。

リーマンショックを経て、搬送用機械分野という一つの業界に特化するだけでなく、別の業界にも進出し、柱となる業務を作らねばと考えていた中、同社に一通のメールが届く。送り主は大手自動車部品メーカー。内容は自

動車部品に使うベアリングを作ってみないかというオファーであった。まさかの一流企業からの突然のメールに「最初、似た名前の別企業かと思った」と社長は笑う。

当時、自動車業界はリーマンショック後で部品の大幅コストダウン方法を模索しており、プレスベアリングを得意とする同社に白羽の矢が立ったようであった。プレスと切削で造る同社のベアリングは、研磨で造る既存のベアリングより圧倒的にコストが安かったのだ。

しかし問題は精度であった。同社がこれまで製造してきたベアリングの精度は0.01mm単位であったのに対し、自動車部品が

要求する誤差はミクロン単位、同社が経験したことがない文字通り桁違いの精度が必要となる。しかしここで品質技術の向上に努めることが将来のためになると、ミクロンの精度に挑戦することを決断。そして多くの試行錯誤の上、実に2年以上の時間を費やして開発を行い、2012年に監査合格、納品スタートすることができた。今では売上の約10%を自動車部品が占めるようになり、今後も拡大していく見込みだ。

フジニinjaホイールの開発

同社が開発した「FUJI NINJA WHEEL」(フジニinjaホイール)が2020年度グッドデザイン賞の「ベスト100」に選出され、「グッドフォーカス賞(技術・伝承デザイン)」を受賞した。

フジニinjaホイールは縦横斜め360度全方向に移動できる全方向駆動型車輪である。幾何学的にローラが配置され、実際に見てみると「これが車



輪？」と思わせる、かなり印象的で美しい外観になっている。あらゆる方向に動くホイールが神出鬼没の忍者を連想されること、工場拠点がある伊賀市で開発されたことから「忍者」の名を冠して命名された。

一般的な台車などについているキャスターは、首振りがあるため走り出しが重かったり、真横や斜めに進みにくといった欠点があったが、フジニinjaホイールは、どの方向にも軽い力で動かすことができる操作性の高さが魅力であるという。

ホイールにつけるローラを二分割、半樽型ローラ2個を軸をずらして配置するという独自の発想と構造で外径150mmの小

型ながら一輪で耐荷重300kgの確保に成功し、今後市場拡大が予想される物流現場での無人搬送車や自走ロボットの車輪に最適であると、社長は自信を見せる。

働きがいのある企業 大賞受賞

技術を磨くだけでなく、魅力

的な企業づくりに積極的だ。

2020年9月、同社は「第3回学生に教えたい、働きがいのある企業大賞」で大賞を受賞した。同賞は「就職活動をすすめる学生の良い会社選び」および「働きがいのある中小企業の認知度向上」を目的として、大阪府経営合理化協会が主催している賞である。自動車向けベアリングやフジニinjaホイールの開発などの技術力が評価されたことだけでなく、毎月1回業績などを社員に公表する「ガラス張りの全体会議」や「若手が頑張れる会社」を掲げた能力成果主義の人事制度などが評価された結果である。

また2017年1月新工場移転を機に就業規則を変更、他社に先駆けて「工場敷地内全面禁煙」「就業時間内禁煙」を取り入れるなどの先進的な取り組みも行っている。

社員教育にも力を入れており、技術部門以外の社員も含めた全ての社員が「品質管理検定3級」以上、役職者には「ビジネスマネジャー検定」の取得を義務

付けている。そして作業服の色にはあえて食品工場などで使われている「白」を採用。この作業服が汚れないくらい工場や機械を清潔に保つことを徹底しており、ベアリングプレス工場といえ「油で汚れるのが当たり前」というイメージを払拭したいという考えだ。

SDGsへの取組や障がい者自立支援の援助を行うなどの社会貢献活動にも積極的だ。「私企業である以上もちろん売上・利益は大事であるが、それだけでは今の世の中評価してもらえない。富士製作所で働いていることを、社員そして社員の家族も誇りを持てるような企業を目指す」と社長は語る。

文明・文化を創る

「世の中に無いモノ・サービスを発想し、文明・文化を創ることを企業価値と位置づけている。

今後、人も役に立つ、世の中を豊かに便利にしていく製品を作っていきたい」と社長は熱く語る。昨年創業80周年を迎え、フジニinjaホイールなどの他には

支店より一言

伊賀の地から世界に向けて常に挑戦を続ける同社。その卓越した開発力の源泉は、従業員を大切に企業文化にあるのだと思います。従業員だけでなく、その家族や、地域社会まで配慮した経営をなさっており、その理念は私も地方銀行とも相通ずるものを感じます。

岩田 芳樹

今後も当地区を代表する企業として、地域に愛され、世界の第一線で活躍されることを期待しております。



百五銀行 上野支店長 兼 上野中央支店長 小川 真史